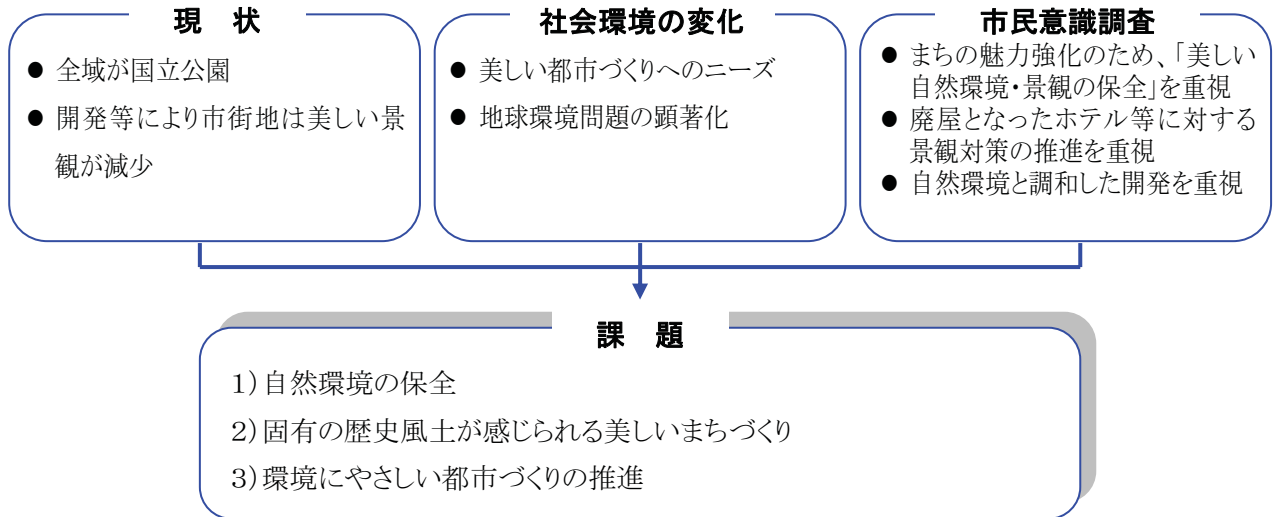


# 第1章 都市の現状と課題

# 1. 都市づくりの主要課題

都市づくりの主要課題は、巻末資料編に示す本市の現状、本市を取り巻く社会環境の変化、市民意識調査の概要等を踏まえて整理しています。

## (1)優れた自然と地域風土に培われた豊かな地域資源の保全と活用



### 1)自然環境の保全

本市は、全域が伊勢志摩国立公園に指定されているなど、優れた自然をはじめ、変化に富む海岸線や島々が織りなす風光明媚な景観が形成されており、海と山に囲まれた豊かな自然環境がまちの大きな財産となっています。

市民意識調査においても、まちの魅力の強化と活性化のための重点的な取組みとして、“美しい自然環境・景観の保全”を重視する意向が多くなっています。

このため、貴重な本市の資源である優れた自然環境を保全することが必要です。

### 2)固有の歴史風土が感じられる美しいまちづくり

平成16年度に景観法<sup>\*</sup>が施行されるなど、美しいまちづくりへのニーズが高まっています。本市の市街地は国立公園普通地域に指定されていますが、これまでの観光開発や住宅開発等により、豊かな自然環境や美しい景観が損なわれつつあります。

市民意識調査では、良好な景観形成に対する取組みとして、“廃屋となったホテルなどの撤去や、景観対策が必要”を重視する意向が多くなっています。

このため、本市の貴重な資産である自然景観や歴史資源、まち並みなど、固有の歴史風土が感じられる美しいまちづくりが必要です。

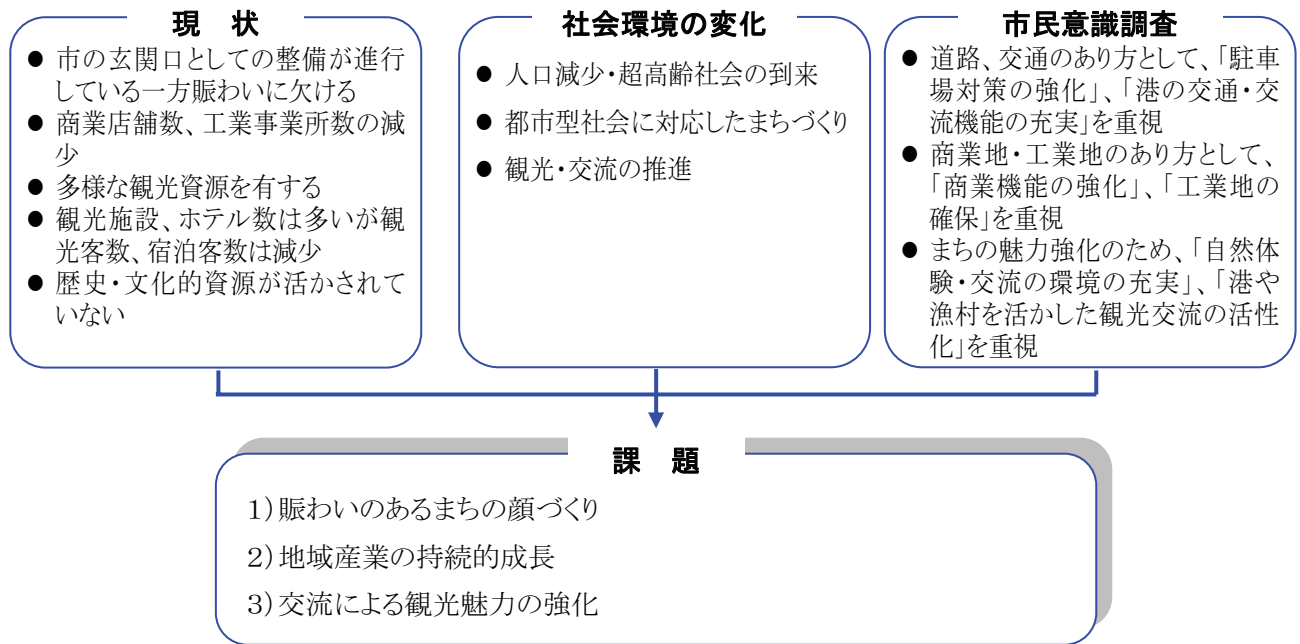
### 3)環境にやさしい都市づくりの推進

地球温暖化に伴う異常気象により、これまでにない自然災害が世界各地で発生しており、地球環境の保全に対する意識が高くなってきています。

市民意識調査では、開発と保全のあり方について、“自然環境との調和を図りつつ必要な開発を進める”を重視する意向が多くなっています。

このため、環境への負荷の少ない資源循環型社会や低炭素社会の実現に向けて市民とともに取り組んでいく必要があります。

## (2)交流環境の向上と地域産業の持続的成長



### 1)賑わいのあるまちの顔づくり

本市の玄関口であるJR・近鉄鳥羽駅から鳥羽港周辺は、カモメの散歩道の整備や鳥羽マリンターミナルの建設等により、本市の玄関口としての整備が進んでいますが、一方で空地が多く、賑わいに欠けるなど魅力に乏しい空間となっています。

市民意識調査においても、道路、交通のあり方として、“駅周辺等での駐車場対策の強化”、“鳥羽港佐田浜地区の交通・交流機能の充実”を重視する意向が多くなっています。

このため、JR・近鉄鳥羽駅から鳥羽港周辺において、本市の顔として、また、旅の玄関口としてふさわしい市街地の形成が必要です。

### 2)地域産業の持続的成長

本市の商工業は、近年、低迷が続いており地域経済に大きく影響しています。商業の店舗数の減少は、市民の買物の利便性を低下させており、工業の事業所数の低迷は就職を求める若者などの流出を招く要因となっています。

市民意識調査においても、商業地・工業地のあり方として、“商業機能の強化”や“工場の移転・集約も

含めた工業地の確保”を重視する意向が高くなっています。

このため、商業については、鳥羽駅周辺を中心として魅力ある商業地等を形成し、市民や来訪者の購買意欲を高める必要があります。工業については、第二伊勢道路のインターチェンジ建設効果を活かしつつ、工業地の確保と企業誘致に努め、若者などの雇用の場の創出につなげていくなど、地域産業の持続的成長を図ることが必要です。

### 3)交流による観光魅力の強化

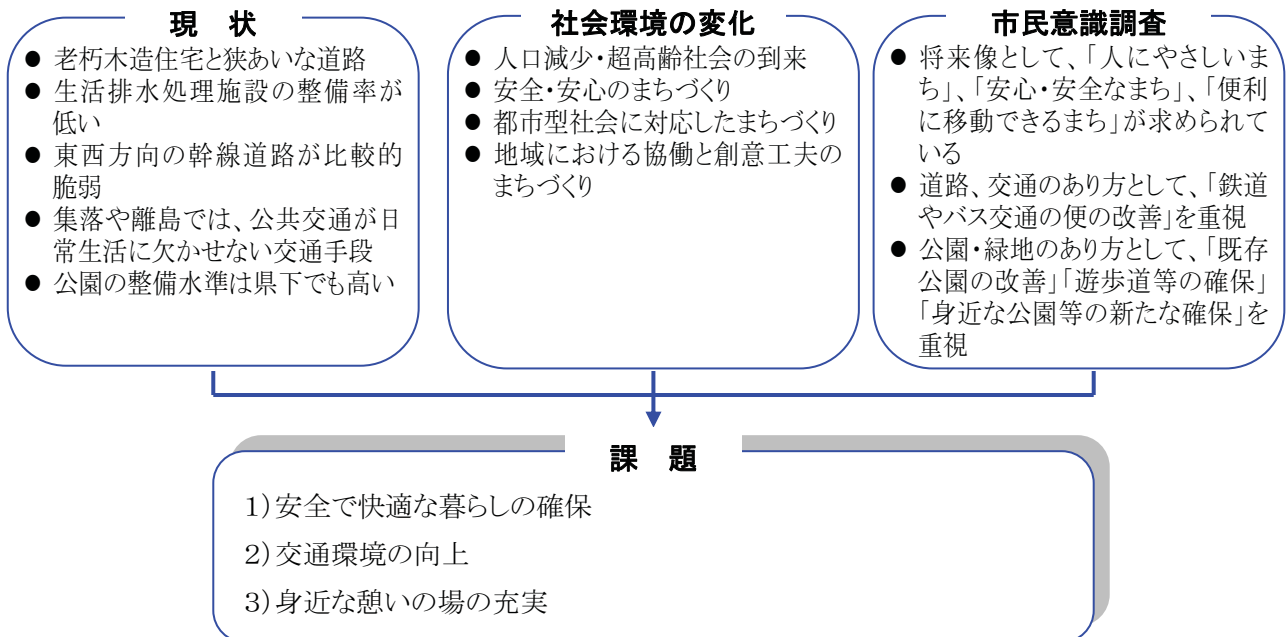
近年、国際観光時代を迎え、平成18年に観光庁の設置、平成19年には観光立国推進基本法が施行されるなど、観光に対する国レベルでの取組みが進んでいます。本市は、鳥羽水族館、ミキモト真珠島、鳥羽湾めぐり、イルカ島、鳥羽展望台、海の博物館等、様々な観光資源に恵まれ、観光客数は年間約430万人となっています。ホテル・旅館・民宿なども多く、伊勢志摩地域の宿泊拠点となっていますが、観光客数・宿泊者数ともに減少傾向がみられます。

また、鳥羽駅周辺の市街地や農山漁村の集落地では、歴史・文化的景観が形成されていますが、その魅力が十分に活かしていない状況です。

市民意識調査では、まちの魅力の強化と活性化のための重点的な取組みとして、“多彩な自然体験・交流の環境の充実”や“港や漁村を活かした観光交流の活性化”を重視する意向が多くなっています。

このため、変化に富む海岸線や離島の自然、美しい風景はもちろんのこと、港町や城下町として培われた歴史や文化、漁村集落ならではの風土や暮らしなど、地域産業や地域資源を有効に活用しながら、まちづくりと一体となって多様な楽しみ方ができる観光魅力を高めていくことが必要です。

## (3)質の高い安全で快適な生活環境の確保



## 1)安全で快適な暮らしの確保

本市周辺では、東海地震、東南海・南海地震の発生確率が極めて高いと予測されています。

本市では、古くから港町や城下町として栄えた市役所周辺の歴史的市街地や漁村集落等では、人口の減少や高齢化の進行が著しいとともに、建て詰まった老朽木造住宅と狭あい道路<sup>\*</sup>がみられ、空地や空家等が増加しています。

市民意識調査においても、将来像として、“子どもや高齢者、障がい者に配慮した「人にやさしい」まち”、“地震、風水害等の災害に強い「安心・安全」なまち”を求める意向が多くなっています。

また、本市の生活排水処理施設の整備率は、平成 21 年で 34.1%と三重県の平均値 76.5%を大きく下回っています。

このため、人にやさしいまちづくりや、住宅の耐火・耐震化の促進、生活道路の確保、防災施設の整備など、市街地や農漁村における多様な居住空間の中で、より安全で安心して生活できる環境の確保が必要です。また、海・河川等の公共用水域の水質浄化の面で特に重要な生活排水処理対策の推進が必要です。

## 2)交通環境の向上

本市の幹線道路は南北方向を中心に整備されており、東西方向が比較的脆弱となっています。また、鉄道、バス、市営定期航路、鳥羽伊良湖航路の公共交通は、地域の日常生活に欠かせない交通手段となっています。

市民意識調査では、将来像として、“道路・交通網が整備され、市内外を「便利に移動」できるまち”が求められ、また、道路、交通のあり方として、“鉄道やバス交通の便の改善”を重視する意向が比較的多くなっています。

このため、鉄道やバス交通、市営定期航路の充実に努めていくとともに、鳥羽伊良湖航路を国道 42 号の海上ルートとして位置づけ、今後も維持していくことが必要です。

## 3)身近な憩いの場の充実

公園については、市民の森公園(地区公園<sup>\*</sup>)や鳥羽中央公園(運動公園<sup>\*</sup>)等が整備されており、その整備水準は県下でも高くなっています。

しかしながら、市民意識調査では、公園・緑地のあり方として、“既存公園の改善”“遊歩道等の確保”“身近な公園等の新たな確保”を重視する意向が多くなっています。

このため、地域住民の実状に応じた公園の充実や公園の効果的な活用が必要です。

